

生物多様性に与える影響の軽減、生態系の保全・回復の推進



三井物産は、森林資源事業でFSC®認証等を取得し、責任ある森林資源管理を行うとともに生物多様性に配慮した取り組みを行っているほか、生物多様性を育む農法による食糧事業等を推進しています。また、水力発電事業では、環境に最大限配慮した事業運営を行うべく環境プログラムを実施、その中で魚類・哺乳類を含む動植物の保護を行っています。さらに、当社が日本全国74か所(約44,000ヘクタール)に保有する社有林「三井物産の森」では、全山林でFSC®とSGECを取得。管理区分内の10%を生物多様性保護林に指定し、維持・管理を行っています。

当社の取り組み

活動

SDGs: 8.7, 15.1, 15.2, 15.4

事業名	取り組み内容
水力発電	ブラジル北部マデイラ川に位置するJirau水力発電事業では、豊かな生物多様性を誇るアマゾン川流域のため、地域社会やNGO等の関心も高く、環境に最大限配慮した事業運営を行っています。約600億円をかけて推進している環境プログラムでは、周辺環境や住民へのあらゆる影響を事前に調査の上、周辺住環境を改善すべく、病院、学校、新しい住居を整備するとともに、魚類・哺乳類を含む動植物の保護等を実施しています。
森林資源	紙の原料となるウッドチップの安定供給を目的に、事業パートナーと共に、オーストラリアで展開している植林事業(事業面積は、2019年3月末現在で約23,000ヘクタール)では、FSC®(FSC®-C104107/FSC®-C107463)およびPEFC認証を取得し責任ある森林資源管理を行うとともに、生物多様性に配慮した取り組みを行っています。
米の生産・販売	当社子会社の東邦物産では、農業や化学肥料をできる限り使わない等、生物多様性を育む農法による米の生産・販売を支援しています。

「三井物産の森」における生物多様性保全

活動

SDGs: 15.1, 15.2, 15.4, 15.5

当社は、北海道から九州まで全国74か所に合計約44,000ヘクタールの「三井物産の森」を保有しています。広さは東京23区の約70%、日本の国土の0.1%の面積に相当します。「三井物産の森」は、「人工林(約40%)」と「天然林および天然生林(約60%)」に区分されますが、さらに生物多様性の観点から重要性が高いエリアを、「生物多様性保護林(「三井物産の森」全体の約10%)」に設定し、希少生物の生息環境の保護等の管理を行っています。

NGOとの協働による生物多様性保全

活動

SDGs: 13.3, 13.6, 15.1, 15.2, 15.4, 15.5

カンボジアプレイロング森林での森林保全活動(REDD+*)

カンボジア北東部、メコン川西岸に位置するプレイロング地域は、絶滅危惧種を含む多くの野生生物が生息するインドシナ半島最大級の熱帯低地常緑樹林で、同国の貴重な水源です。しかし、違法伐採や地域住民による農地開拓により森林減少が進み、野生動物の生息域が脅かされると同時に、森林に蓄積されるべき温室効果ガスの排出が増えています。

当社は、国際NGOであるコンサベーション・インターナショナルとのパートナーシップにより、カンボジア環境省と協働してパリ協定で定めるREDD+の仕組みを活用し、プレイロング地域における違法伐採取り締まりのための森林パトロールを強化しています。また、地域住民との対話を通じ森林伐採に依拠しない代替生計手段の提供等を行うことで、森林の保全および生物多様性への貢献を目指しています。



プレイロングの熱帯低地常緑樹林
©Jeremy Holden

*: Reducing Emissions from Deforestation and forest Degradation, and the role of conservation, sustainable management of forests and enhancement of forest carbon stocks in developing countriesの略で、開発途上国における森林の減少や劣化を防止することにより排出削減できた温室効果ガスに対して、排出権等の経済的インセンティブを与える仕組みです。

三井物産環境基金を通じ生態系修復に向けた研究を支援

活動

SDGs: 15.1, 15.2, 15.4

横浜国立大学 環境情報研究院では、知床の森林において、植物や土壌の生物多様性に加え、有機物の分解や土壌の養分保持等の機能性を定量化し、その知見を基に「プロセスモデル」という手法で200年先を見据えた森林動態予測を行い、包括的な回復手法を提言することを目指し研究を進めています。当社は、本研究がこれまでほとんど実施されてこなかった生態系の多機能性に注目する研究である点を評価し、三井物産環境基金の助成案件の一つとして支援しています。



「知床の森」「しれとこ100平方メートル運動地」および周辺での調査風景